

セタシジミ採卵済み親貝への栄養添加の試み

井戸本 純一

◆背景・目的.....

採卵済みの親貝を天然水域に放流するにあたって、人為的な栄養添加によって生残率を向上させることが可能か検討し、漁場への効果的な資源の還元をはかるとともに、採卵前の親貝養成技術への応用をめざす。

◆成果の内容・特徴.....

- 採卵直後の親貝を、ブドウ糖（0.2%、0.02%）または米粉（0.01%）を添加した濾過湖水または水道水（20℃に冷却）に3日間浸漬（毎日換水）したのち、常温（24～28℃）の湖水または濾過湖水で畜養し、その間の死貝の発生状況を観察した。
- 冷却中は、死亡率（死貝数／前回計数時の生貝数）にはあまり変化が見られなかったが、常温に戻してから、栄養添加した区の死亡率が対照区にくらべてやや低くなる傾向が数日間つづいた。
- 栄養添加にともなう雑菌の繁殖抑止を目的として紫外線殺菌を施した実験（ブドウ糖添加）では、上記のような傾向が見られず、死亡率の低下に細菌の増殖が関与している可能性が示唆された。

◆成果の活用・留意点.....

- 引き続きほかの栄養添加物の可能性について検討するとともに、細菌の作用にも着目した研究を進める必要がある。

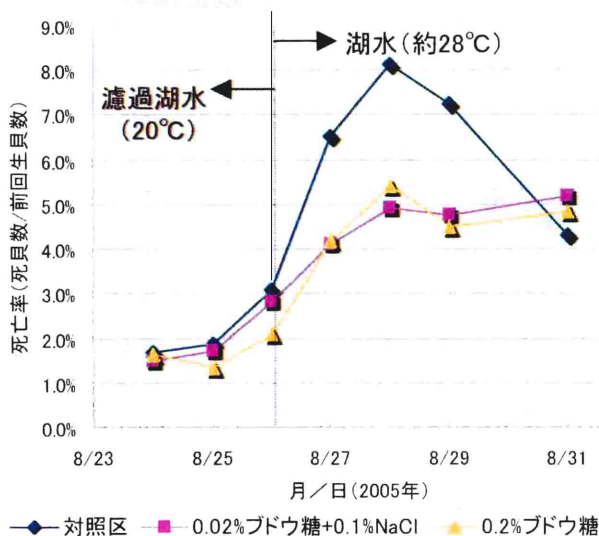


図1 採卵後ブドウ糖添加水に浸漬したセタシジミの死亡率の推移. 供試貝は各区6kg（約2200個）.

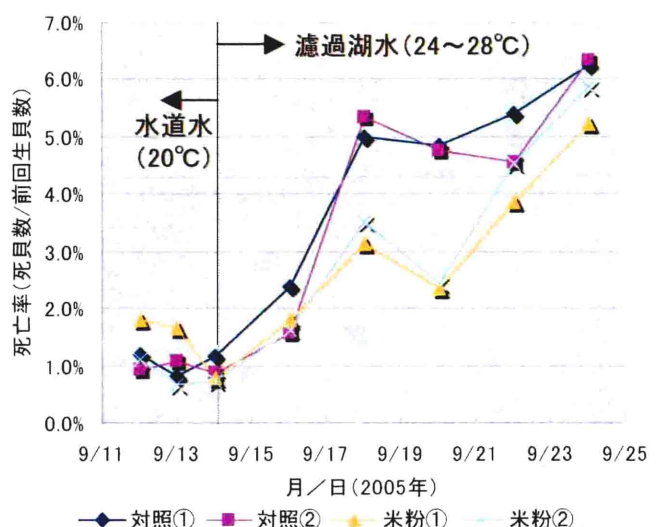


図2 採卵後米粉添加水に浸漬したセタシジミの死亡率の推移. 供試貝は各区5.5kg（約2000個）.